

平成22年1月26日

水戸商工会議所
会頭 加藤 啓進 様

水戸市長 加藤 浩一
(広報広聴課扱)

平成21年10月7日あなたから 要望書 をいただきましたことについては、下記のとおりです。

1. 中小企業振興策について

・地域経済の振興に向けた、「公共事業の地元企業への優先発注」の更なる強化及び「地元企業からの物品調達」について

【回答】

水戸市が発注する公共事業については、これまでも市内に本社を置く地元業者への優先発注に努めてまいりました。平成20年度における建設工事の地元業者への発注率は件数比で約92%と前年度を上回っており、今後につきましても、引続き地元業者への優先発注に努めてまいります。また、物品調達についても、地元業者で取扱うことが出来るものは、地元業者から調達するよう引続き努めてまいります。

[担当 契約課]

・地域経済の振興に向けた「制度融資の利子補給」について

【回答】

自治金融などの制度融資の利子補給につきましては、厳しい財政事情ではありますが、中小企業の振興を図るため、引き続き平成22年度も継続してまいりたいと考えております。

また、マル経資金の利子補給につきましては、当初より時限的な制度としており、所期の目的を達したと考えられ、利用者が自治金融などに移行している傾向があることから、昨年度末で廃止した経緯がありますので、御理解願います。

[担当 商工政策課]

2. 中心市街地活性化策について

・ 街なか居住の推進に向けた取り組み実施について

【回答】

人が住んでいるということは、まちが成り立つ基本的な条件であることから、中心市街地ににぎわいを取り戻すため、街なか居住の推進を図ることは重要なことであると認識しております。

したがって、中心市街地において、民間による再開発事業や都市型共同住宅の建設を促進するとともに、中心市街地における多様な居住ニーズに対応した施策を検討してまいりたいと考えております。

[担当 商工政策課]

・ 水戸駅北口ペDESTリアンデッキ広場の活用に向けた取り組みについて

【回答】

水戸駅北口ペDESTリアンデッキにつきましては、通勤・通学をはじめ多くの利用者が、国道を越えて水戸駅と各方面とを安全かつスムーズに行き来できる歩行者（ペDESTリアン）専用の空間として位置づけられております。このため北口ペDESTリアンデッキでのイベントの開催にあたっては、歩行者の通行に支障が無いことや安全性の十分な確保、営利を目的としない等の条件に適合することを確認した上で許可しているところです。

現在実施しているエスカレーター設置をはじめとする改修工事につきましても、北口ペDESTリアンデッキのバリアフリー性の向上を主眼としており、今後も安全かつ快適な歩行者空間の確保を最優先として北口ペDESTリアンデッキの維持・管理に努めてまいりたいと考えております。

なお、北口ペDESTリアンデッキでイベントを行うには市の許可の他に、道路交通法が適用となることから警察の道路使用許可も必要となりますので御留意ください。

[担当 都市計画課]

・ 中心市街地の空き店舗削減に向けた総合的な取り組み実施について

【回答】

中心市街地地区の空き店舗が増加し、商業機能の空洞化が進んでおり、その対策は、本市の最重要課題の一つであることから、これまで空

き店舗の有効活用や創業者の支援を行い、空き店舗の解消に努めてまいりました。

引き続き、経営に関する知識の修得を目的とした「創業支援塾」と「空き店舗対策事業」の有機的な関係を図りつつ、総合的かつ一体的に事業を展開し、街のにぎわいを創出してまいりたいと思います。

[担当 商工政策課]

・夜間における中心市街地の防犯・安全対策の強化について

【回答】

中心市街地における治安情勢の悪化につきましては、今後水戸警察署に対して防犯パトロール等の更なる強化を要望するほか、現在市内各地で活発に行われている一般市民による自主防犯活動団体に対し、帽子、腕章、ベストの防犯資機材を貸与しており、今後も継続して支援してまいります。

なお、夜間の安全を確保するため、市では町内会等が防犯灯を設置した場合、30,000円を限度として設置費用の2分の1を補助する制度(設置等補助金)及び4月1日時点で町内会等が管理する防犯灯1基につき1,000円を補助する制度(管理補助金)がございますのでご利用ください。ただし、この制度は町内会等を対象としており、商店会等で設置管理する街路灯や装飾灯については対象としておりませんのでご了承くださいますようお願いいたします。

[担当 地域安全課]

・水戸市役所の旧県庁跡地への移転について、一部移転の早期実現と段階的な全面移転に向けた庁舎等整備事業基本プラン策定の決定について

【回答】

県三の丸庁舎への市役所一部機能移転につきましては、平成21年3月23日に「茨城県庁舎跡地利用に関する申入れ」を行い、4月から協議を開始したところであります。

協議を進める中で、耐震診断調査を実施するため、県においては、10月議会で補正予算化したところであり、現在、調査に向け、作業を進めているところであります。

本市においては、耐震診断調査費用を応分に負担することで県との協議が整い、12月議会において、補正予算化したところがございます。また、中心市街地の活性化や市民福祉の向上の視点から、どの部署、機能を移転すべきか、そして移

転に伴う改修の工事概要等についても検討しているところであります。

今後、現時点では不確定である耐震化も含めた改修等の経費やその費用負担など、整理すべき課題事項について、県と協議しながら精査してまいりたいと考えております。

又、本庁舎につきましては、この協議も踏まえながら、今後さらに庁舎のあり方等の検討を進めてまいります。

[担当 管財課]

・ 中心市街地における再開発事業の促進について

【回答】

大工町1丁目地区につきましては、事業の早期完成を多くの市民が待ち望んでいるところでありますが、事業を取り巻く環境は依然として厳しく、なかなか予定通り進展しない状況にあります。

このような中、再開発組合においては、過去2度の工事入札不調の結果を踏まえ、施設計画の見直しや工事費の圧縮について再検証を行うとともに、より確実な施工業者の確保と事業を取り巻く社会経済情勢の変化にも十分対応できるよう「特定業務代行方式」を活用することとし、10月から公募に向けた準備作業を行い、その後、公募手続を進めることとしております。

この「特定業務代行方式」については、民間のノウハウを活かした事業提案を反映できることから全国でも多く活用されている手法であり、今後の円滑な事業推進に大いに弾みがつくものと期待しております。

次に、泉町1丁目北地区につきましては、再開発準備組合において、これまで、事業化に向けた構想案の作成、検討とともに、関係権利者の合意形成を図ってきたところであります。

引き続き、施行区域や導入施設の用途、交通計画など、事業化に向けて山積する問題・課題点の整理を行うほか、事業採算計画等についても十分検証した上で、実効性ある事業計画案となるよう検討を重ねているところであります。

市といたしましても、両地区の事業が早期に実現されるよう、引き続き、積極的に支援してまいります。

[担当 泉町・大工町周辺地区開発事務所]

・ 高齢者などの交通弱者が出来るだけ中心市街地へ足を運べる、仕組みづくりについて

【回答】

本市では、水戸駅を中心に市内外を結ぶ路線バスが運行されており、その多くが中心市街地を経由しております。中心市街地における路線バスの運行本数は非常に多く、中心市街地への高いアクセス性ととも、一定の利便性は確保されているものと考えております。

一方で、路線バスについては、長年に亘り地域の重要な交通手段として、また、地域活力を支える社会基盤として重要な役割を果たしておりますが、モータリゼーションの進展等の影響により、利用者が減少傾向にあることから、減便や廃止がなされるなど、一部の地域においては、利便性の確保、さらには、移動手段の確保が課題となっております。

そのため、本市では現在、路線バスの維持活性化に主眼を置き、茨城県公共交通活性化会議を活用しながら、路線バスの利用促進に向けた事業を展開するとともに、本市における公共交通機関のあり方等についての基礎的研究を行っているところでございます。

本格的な高齢社会を迎え、高齢者をはじめとした、いわゆる交通弱者の方々の移動手段を確保し、利便性を高めることは、都市の魅力を高めるためにも重要となってまいりますので、地域の課題やニーズを十分に把握し、ご要望のありましたコミュニティバスなど、路線バスを補完する新たな交通システム導入の可能性も含め、総合的に研究してまいりたいと考えております。

[担当 地域振興課]

3. 観光都市を目指す基盤整備策について

・ロマンチックゾーンの環境整備とPRの更なる推進について

【回答】

ロマンチックゾーンにある保和苑につきましては、公園利用者の声を反映したより使いやすい公園を目指し、園路整備やアジサイの植栽等のリニューアル整備を進めているところであり、今後も整備推進に努めてまいりたいと考えております。

[担当 公園緑地課]

保和苑を中心とした「水戸のロマンチックゾーン」につきましては、桂岸寺参道入り口付近に臨時駐車場としても利用可能な多目的広場の整備を行ったほか、観光誘導案内板の設置を進めており、環境の向上に努めております。

PRにつきましても、観光モデルコースを設定し、各種案内パンフレ

ット等でPRに努めるほか、市ホームページや各種メディア等を活用したPRを進めてまいります。

[担当 観光振興課]

・道場池周辺の環境整備・保全について

【回答】

道場池（心字池）につきましては、良好な水辺環境の形成に向けた検討を進めているところであり、整備の方策などにつきましては、今後、地元と協議をしながら検討してまいりたいと考えております。

[担当 公園緑地課]

・北関東自動車道路延伸に伴う観光ビジョンの明示について

【回答】

北関東自動車道路延伸や茨城空港の開港など広域交通網の進展による新たな賑わいの創出が見込まれるなか、県央地域首長懇話会、水戸ひたち観光圏等により広域的な連携を図り、水戸市の歴史や優れた文化を中心に広域観光ルートの設定などを行い、広域観光の推進に努めてまいります。

[担当 観光振興課]

・水戸コンベンションビューロー運営の支援及び補助金交付について

【回答】

「水戸コンベンションビューロー」の活動につきましては、地域経済の活性化に貢献するものと期待しているところであり、今後の運営状態や経済効果等と、市財政状況などを鑑みて対応してまいります。

[担当 観光振興課]

・黄門ミュージアムの中心市街地への設置について

【回答】

中心市街地に隣接した偕楽園、千波湖を中心としたエリアにおいて、観光案内や飲食、物産、休憩等の機能を併せ持つ観光交流拠点施設を平成22年2月オープンに向け、現在建設中であります。

[担当 観光振興課]

・世界遺産登録へ向け、旧町名の復活について

【回答】

新莊地区の新屋敷(10町内会)では、旧町名の復活についてのアンケートを実施し、さらに、年1回程度の懇談会を行っております。

復活については、世代間での希薄化や法人・事業所等の登記変更などがあり、現時点では消極的な傾向にあります。

行政においても、引き続き、懇談会代表者と連携を図りながら、推移を見守ってまいります。

[担当 市民生活課]

・水戸城三階櫓^{やぐら}の復元について

【回答】

水戸城三階櫓につきましては、再建を考える場合には、歴史的な価値を重視した史実に即したものとするのか、あるいは誘客のためだけの観光施設とするのかなど多くの解決すべき課題があります。

最近の観光客の傾向は本物志向といったようなものもあることから、ご要望にありますような簡易な外装のみを復元したもので「水戸城三階櫓」と称せるのか、また、財源や建設場所につきましても、どのようにするのか、今後、市民の意識や動向を慎重に見極めていく必要があると考えています。

[担当 観光振興課]

4. 環境に繋がる基盤整備策について

・住宅用太陽光発電システム設置補助制度の充実について

【回答】

住宅用太陽光発電システムについては、自然エネルギーを活用した発電システムであることから、省エネルギー・省資源に効果があるとともに、地球温暖化の原因物質とされております二酸化炭素などの温室効果ガスの発生抑制に繋がるものと考えております。

このことから、本市におきましては、平成14年度から家庭用太陽光発電システムを設置される市民の皆様に、設置費の一部を補助し、平成20年度末現在で473件の補助を行っております。

本年度におきましては、ご指摘のように、国の補助制度が平成21年1月から新たに設けられ、併用申請が可能となったことから、7月中で当初見込んでいた85基の枠がいっぱいとなり、更に太陽光発電システ

ムの設置希望者も多くなっている状況にあることから、市民の皆さんへの公平性の観点から、新たに100基分を予算化したところでございます。

ご要望の1キロワット当たりの単価と1件当たりの上限額の引き上げにつきましては、限られた予算の中で、より多くの市民の皆さんにご利用いただくことを考えておりますので、今後とも国の動向や普及状況を踏まえつつ検討してまいりたいと考えております。

[担当 環境課]

・未来の子どもたちに残したい環境を守るために「水戸市民グリーンコンシューマー化の奨励」実施について

【回答】

ご指摘のように、次の世代によりよい環境を継承していくためには、日常の消費活動から地域環境及び地球環境を考え足元から行動することが、大切なことと考えており、現在、世界的にも最重要課題となっております地球温暖化を防止するためにも、欠かせない行動であると認識しております。

本市におきましても、環境基本計画において、望ましい環境像として「水と緑を育み 豊かな環境を未来へ引き継ぐまち 水戸」を掲げ、環境保全のための循環型社会の構築を目指し、環境型製品の利用を掲げているところであります。

この中で、消費者によるリサイクル活動の充実や不用品等の有効利用の促進、また、再生品の有効活用及びリサイクル製品に関する情報の提供等を推進することとしております。

これらの活動や買い物袋持参運動等により、グリーンコンシューマーが増えることを目指しており、今までも事業者の積極的な取り組みによるエコショップの認定やレジ袋の無料配布中止などにご協力をいただき、市民皆さんへは、ホームページ等でお知らせし、ご協力をいただいております。

つきましては、今後とも、日常の消費活動から環境について考えていただくため、イベントや地区の説明会等での啓発に努めてまいりたいと考えております。

[担当 環境課]

・千波湖の水質浄化について、市民を交えた共同事業の推進について

【回答】

千波湖は昭和50年代から家庭の雑排水等の流入の増大により急激に水質の悪化が始まったことから、水質浄化対策として、昭和63年度から千波湖に溜まった底泥の浚渫、霞ヶ浦導水の暫定導水として、那珂川の水を桜川経由で千波湖への導水を行ってまいりました。

更に、平成9年度よりジェットストリーマーを10基設置し、湖水の循環とアオコ対策を行っております。

また、平成21年度には、水生植物を周りに配置した親水デッキや噴水も完成する予定です。

市民を交えた共同事業としましては、平成15年度より桜川清流ルネッサンスⅡとして市民、官公庁が一体になって、千波湖や桜川水系の水質浄化への取組みが開始され、桜川清流ルネッサンスⅡ行動計画に基づき、桜川クリーン作戦や環境学習会等を地域住民、ボランティアを中心に国・県の協力を得て実施し、市民の千波湖や河川を大事にしようとする思いが醸成されているところでございます。

これらの事を踏まえて、今後も市民、国土交通省、茨城県及び水戸市を交えた事業を推進してまいります。

[担当 河川排水整備課]

・成就院池流出口の水質管理について

【回答】

成就院池は昭和63年に農業用ため池として整備され、平成18年から「まちづくり交付金事業」により公園整備の手法を取り入れながら、ため池周辺を整備中であり、地域住民の憩いの場としても利用されております。

また、当池は地元団体によりサギ草の自生地復元やホタルの生息を目的とした水路整備や、池の水を循環させるなど、自然環境に配慮した整備を行っているところです。

更に、ホタル水路の中には川底に石灰石を使用するなど、ホタル生息に適した環境づくりに努力しているところです。

水質管理の徹底については、関係機関及び市民団体の意向を踏まえながら、慎重に検討して参りたいと考えております。

[担当 農業環境整備課]

成就院池流出口の用水路について調査したところ、汚濁した雑排水が排出されておりました。茨城県に依頼し、立ち入り検査を実施した結果、浄化設備の保守点検、清掃および法定検査が実施されておらず、処理水の水質が基準値に満たされていないため、水質の悪化が増長されたと思われまます。現在は県の指導により定期的に点検を実施して、水質が改善されておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

[担当 道路河川管理課]

・大塚池周辺の水環境の整備について

【回答】

大塚池の水質につきましては、前回の回答のとおり、湖沼の環境基準をクリアしており、また、平成19年度と平成20年度の水質検査を比較すると、下水道の普及、周辺住民の水質向上に向けた意識の高まりにより、CODの数値が向上しております。

今後につきましては、水質の調査に注視しながら、渡里幹線用水路から大塚池への導水の可能性につきましては、導水量、費用、工法、効果等を含め、関係機関等と協議してまいりたいと考えております。

[担当 公園緑地課]

5. 地域活性化に繋がる基盤整備策について

・都市計画道路3・3・2号中大野中河内線姫子～国道50号線区間の早期開通について

【回答】

ご要望のありました区間については、幹線市道21号線から県道赤塚馬口労線の区間を都市計画道路3・3・2号中大野中河内線（姫子工区）として、県道赤塚馬口労線から国道50号までの区間を都市計画道路3・3・2号中大野中河内線（松が丘工区）として位置付け、姫子工区は平成7年度から、松が丘工区は平成10年度から事業に着手しております。姫子工区につきましては、事業用地の取得がほぼ完了し、本年度末の供用開始に向け、事業を進めているところであります。また松が丘工区につきましては、現在事業用地の取得やJR常磐線及び沢渡川の橋梁部について設計協議を進めておりますので、引き続き、早期完成に向け事業推進に努めてまいります。

[担当 建設政策課]

・都市計画道路 3・4・5号偕楽園公園上水戸線の早期着工について

【回答】

ご要望のありました都市計画道路 3・4・5号線偕楽園公園上水戸線は、県道上水戸停車場千波公園線から偕楽園公園御成門を経て国道 118号に至る路線として、密集市街地における交通の円滑化を図るため、都市計画道路として位置付けられております。

このうち、新荘 2丁目地内の整備済となっている地点から県道赤塚馬口労線までの区間 400m について、平成 18年度より事業に着手したところであり、これまでに測量及び設計が終了し、現在、事業認可の取得手続き中となっております。この事業認可を取得後、国道 50号側より用地取得を進め、早期完成に向け、事業を進めてまいります。

[担当 建設政策課]

・逆川緑地内歴史広場の進入路拡幅について

【回答】

逆川緑地内歴史広場への進入路は市道のみであるため、引き続き、各関係機関等と協議・検討してまいりたいと考えております。

[担当 公園緑地課]

・災害時の情報伝達システムの整備について

【回答】

大規模な災害発生時には、地域の方々に、防災行政無線（常澄地区・内原地区）、電子サイレン（那珂川沿岸地区）、市広報車、市ホームページ、ラジオ、テレビなどを利用し災害情報の提供をしています。

さらに、昨年度より水戸市メールマガジン（事前に登録していただいた方の携帯電話に災害情報をメールにてお知らせする。）の配信を実施するとともに、登録の加入促進に努めています。

今後とも、携帯電話の活用など多様な手段により災害情報伝達体制の充実に取組んでまいりたいと考えております。

また、大規模な停電時につきましては、災害の一つとしてとらえ、東京電力と連携し、市においても、広報車や防災行政無線（常澄地区・内原地区）等により迅速な広報活動に努めていく考えです。

[担当 地域安全課]

・県営本 1丁目アパート跡地利用の促進について

【回答】

県営本1丁目アパート跡地利用につきましては、地域の活性化や景観保護などの観点から、その有効な活用が求められているところです。

一方、昨年実施いたしました本市の子育て支援に関するニーズ調査において、平成19年度に開設した水戸市子育て支援・多世代交流センターと同等施設の設置を求める声が多く示されております。

そのため、新たな子育て支援・多世代交流センターにつきましては、子育て支援関連施設の整備状況や地域の特性などを総合的に勘案し、下市地区への立地が望ましいとの判断となりました。

今後、跡地を活用した早期の実現に努めてまいります。

[担当 子ども課]

・（通称）備前堀ふれあい広場の整備及び旧東部浄化センター跡地の具体的利用計画策定について

【回答】

跡地につきましては、備前堀周辺地区が第5次総合計画において、地域の歴史性を生かした体験交流拠点と位置付けされていることから、関係機関と協議・検討してまいりたいと考えております。

また、旧東部浄化センター跡地につきましては、スポーツ・レクリエーションや自然を中心とした交流空間の創出にむけた整備を行う予定であり、平成21年度は基本設計・地質調査を行っており、また、平成22年度から盛土工事を行う予定であり、今後、地元の意見等を踏まえながら、具体的利用計画の策定を行い、早期の実現化が図れるよう努めてまいります。

[担当 公園緑地課]

6. その他の振興策について

・水戸マラソン大会の企画及び開催について

【回答】

御要望の中心市街地及び千波湖を中心とした大規模マラソン大会の開催は、新たなまちおこしに繋がる意義のあるイベントであると考えますが、コースの設定やボランティアを含めた運営体制、選手の駐車場や輸送体制など、実現に向けて様々な課題があります。このため、他市町村での運営状況等を調査し、賑わいを創出するマラソン大会などのイベントの開催を検討してまいります。 [担当 スポーツ振興課]

・水戸ホーリーホックの更なるPRと予算（補助金）の計上について

【回答】

水戸ホーリーホックは、全国でも数少ないJリーグのクラブであり、地域のスポーツ文化の振興に向けて大きな役割を担っているだけでなく、まちの活性化の大きな財産であり、まちの魅力を高める地域の貴重な財産であると捉えております。

そのため水戸ホーリーホックを地域に密着した市民球団として更に進展させていくためには、市民一人一人が参加した広域的かつ組織的な支援が必要であるとの認識から、本市では、県、周辺市町村、産業経済団体、スポーツ団体等の協力を得て、平成14年に水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会を設立するとともに、広報「みと」への試合日程の掲載や懸垂幕の掲示による市民へのPRなど、その支援に努めてまいりました。

市立競技場につきましては、陸上競技をはじめ、サッカー、ラグビー等の国際大会や全国規模の大会を開催できる収容人員1万人を超える規模の施設として改修され、日本サッカー協会のJ2基準を満たすこととなりますことから、今後、本市内において水戸ホーリーホックの試合の開催が可能となるものです。クラブにとりましても、多くの水戸市民に観戦していただく転機であり大いに期待しているところです。

このようなことから来年度におきましては、クラブに対する直接的な財政支援は困難ですが、水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会による支援を基本として、水戸ホーリーホックが市民に親しまれ地域に根差した市民球団として伸展しまちづくりの核の一つとなるよう、より積極的に支援してまいりたいと考えております。

[担当 地域振興課]

・映画「桜田門外ノ変」の更なるPRと、協力券の販売支援について

【回答】

映画「桜田門外ノ変」につきましては、「桜田門外ノ変」映画化支援の会設立時から、市長が実行委員会に加わり、支援の会が行なう事業についても、水戸藩開藩400年記念事業の関連事業として位置付け積極的に支援を行なっているところでもあります。

映画放映は、幕末の日本に大きな転機をもたらすこととなった水戸学や、先人達が残した歴史的役割を全国にPRすることになることから、多くの来客が見込まれ地域活性化の起爆剤になるものと考えておりま

す。

今後も、「元気都市・水戸」の実現に向け、積極的に市民と行政で連携協力してまいります。

[担当 観光振興課]

7. 水戸市から関係機関への働きかけをお願いする振興策について

・ 泉町駐車場の利便性向上に向けた関係機関への働きかけについて

【回答】

財団法人駐車場整備推進機構が管理運営する国道50号地下の泉町駐車場については、商店街の駐車場機能の強化を図る上で貴重な施設の一つと認識しております。

同駐車場を含めた既存の駐車場の利便性の向上は、個々の商店街の集客にとって重要な課題であり、必要に応じて関係機関への働きかけ等について検討してまいります。

なお、駐車場の将来的な運営につきましては、財団法人駐車場整備推進機構の意向を見極めていきたいと考えております。

[担当 商工政策課]

・ 国道50号線の大塚町～水戸駅区間を市道に変更することについて

【回答】

道路は、沿線の地域活性化をはかるイベント等の開催の場として、重要なウェイトを占める側面を持ちますが、その機能保持や安全確保のために様々な規制があることも事実であります。

ご要望のありました国道50号は、国が直轄管理しており、本市の中心市街地を支える幹線道路の一つとして、非常に通過交通が多い道路であることから、まず中心地市街地に入り込む通過交通を分散させるための施策が必要となります。

このため、中大野中河内線といった環状道路をはじめ、赤塚駅水府橋線や元台町河和田線といった通過交通を分散させるための幹線道路の整備を進め、中心市街地への車両流入の軽減を図っておりますので、国道50号の市道への変更については、この状況を踏まえ検討してまいります。

[担当 建設政策課]

・ 県道下入野水戸線「酒門6差路付近道路拡幅」について

【回答】

ご要望のありました県道下入野水戸線「酒門6差路付近道路拡幅」につきましては、本市における重要路線の1つである水戸勝田環状道路を構成する都市計画道路3・3・2号中大野中河内線（酒門工区）として、主要地方道水戸神栖線（旧国道6号）から国道6号までの区間を振り替えて整備する計画となっております。

これまでに、元吉田町古宿地内から都市計画道路3・3・1号水戸南口停車場線までの区間である930mが平成11年度までに整備され、現在その西側にあたる、都市計画道路3・3・1号線から都市計画道路3・3・16号線の区間である千波工区720mについて、本年度末の供用開始に向け整備が進められております。

ご要望のありました区間につきましては、県事業として、現在整備中の区間が終了し次第、整備に着手する予定と伺っており、市といたしましても引き続き整備促進に努めてまいります。

[担当 建設政策課]

・ 新川の本格的改修並びに下市地区全般の排水整備について

【回答】

新川は茨城県が管理する延長3.4キロメートルの一級河川であります。新川の河川整備につきましては、県において流量を確保するため浚渫等の維持管理を行っております。

また、県の今後の整備につきましては、流域の市街化状況を踏まえつつ検討していくと伺っておりますが、引き続き、早期改修を県に要望してまいります。

[担当 河川排水整備課]